



Japan Environmental Management
Association For Industry



資料1

第4回 JEMAI環境ラベルコミュニティ

プログラムの現況について【報告事項】

2017年2月20日

※本資料の2016年度実績数は2016年12月末までのものである。

一般社団法人産業環境管理協会

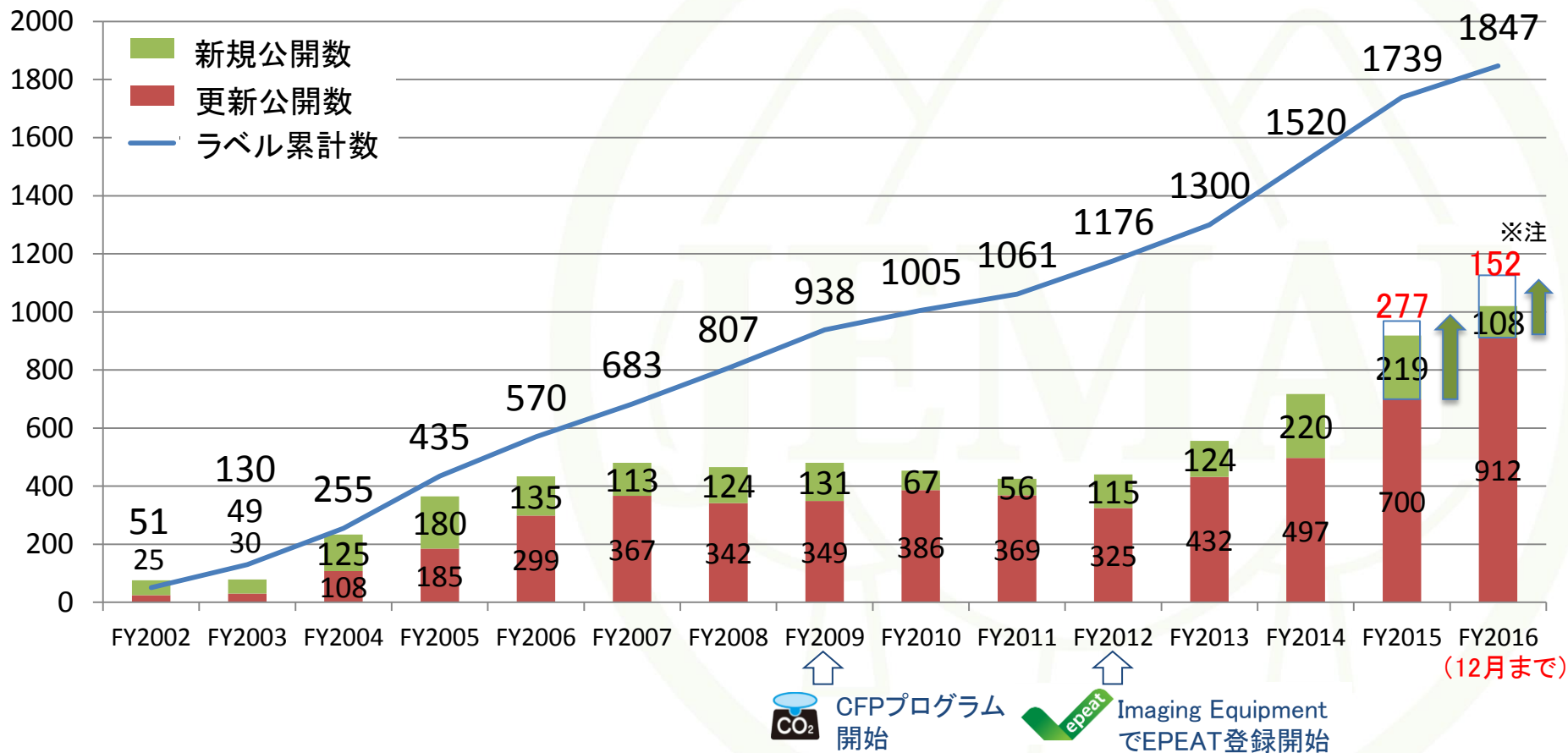
Copyright(C)2013 JEMAI All Rights Reserved





エコリーフ登録公開数 遷移

- ラベル登録数は、事業化後6年までの急伸後は停滞状態となっていたが、2012年度からEPEATで上位認定を目指した複合機分野の新規登録数が増加。



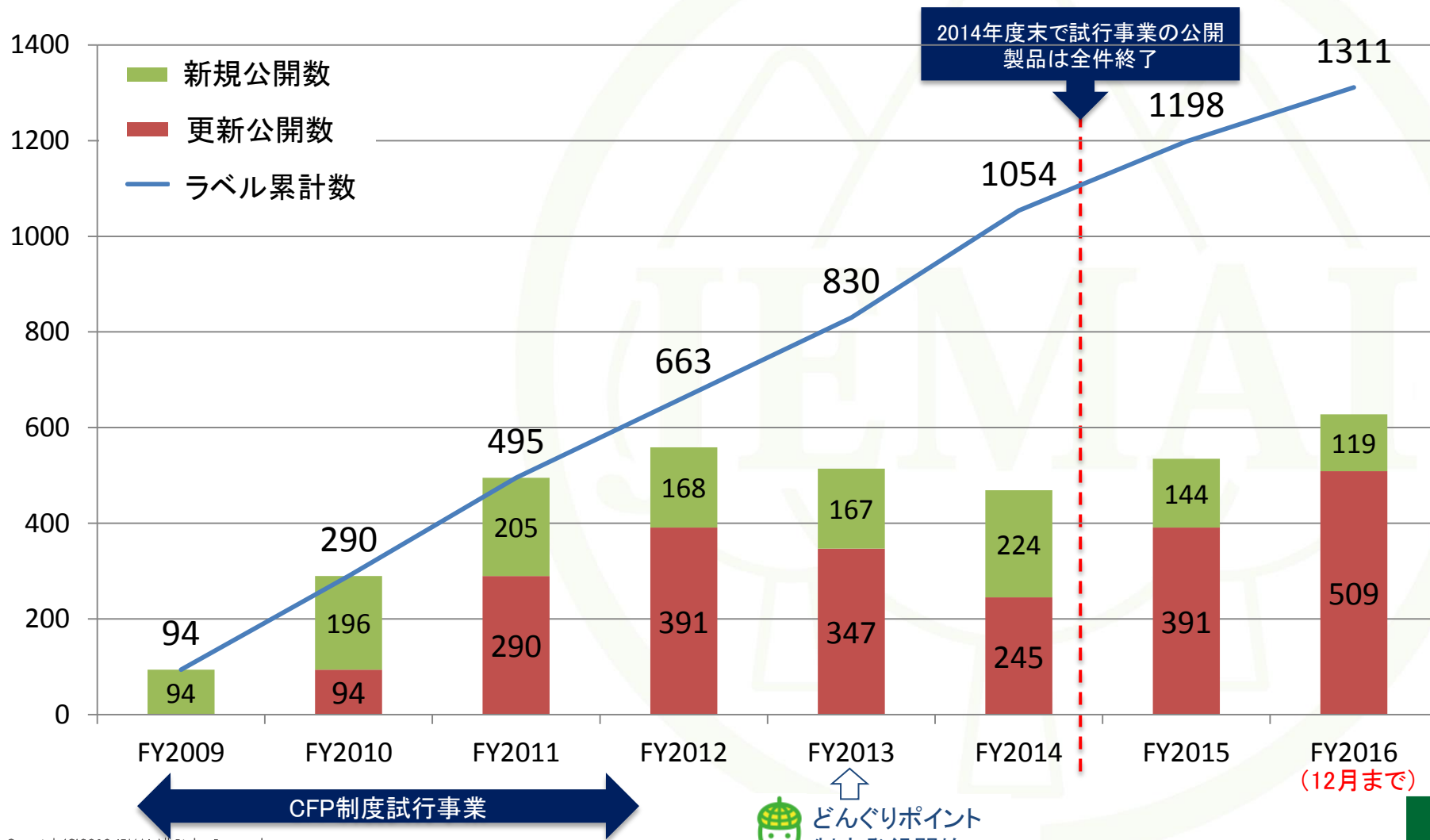
※注釈

登録の方式を変更した企業があり、従来通りの登録方式を行った場合の、推測実績値を赤字で記した。(従来、3つブランドを分けて登録していたものを統合して登録を開始したため)



CFP 登録公開 遷移

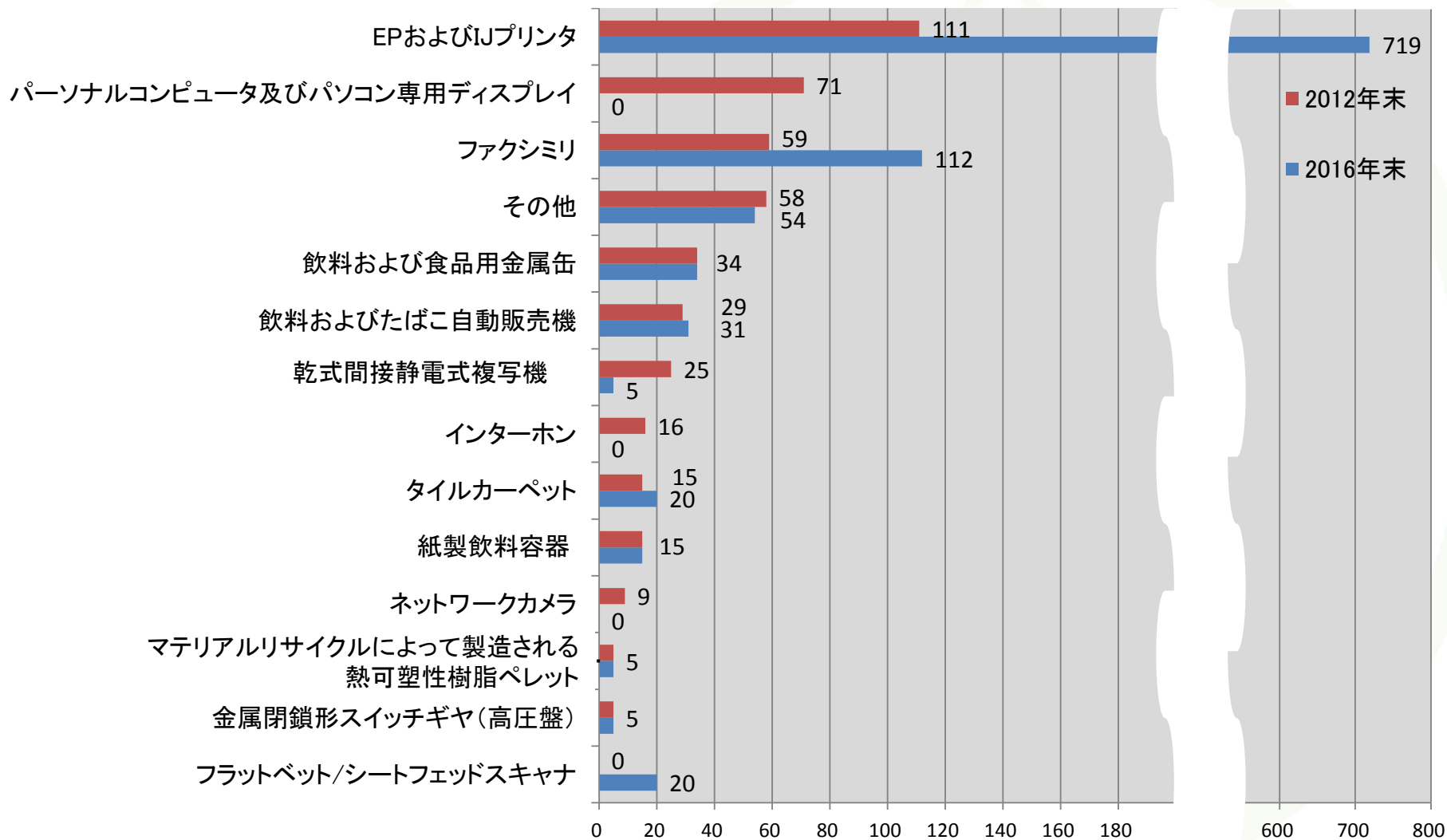
- 印刷分野とエネルギー使用製品(主に複合機)での登録が実績数の増加に貢献。
- 2014年度はどんぐりポイント制度により新規登録数が増えた。





エコリーフ 分野別登録有効製品数

- EPEATの登録を目的とした複合機の新規登録が最も多い。現在公開の8割を占めている。

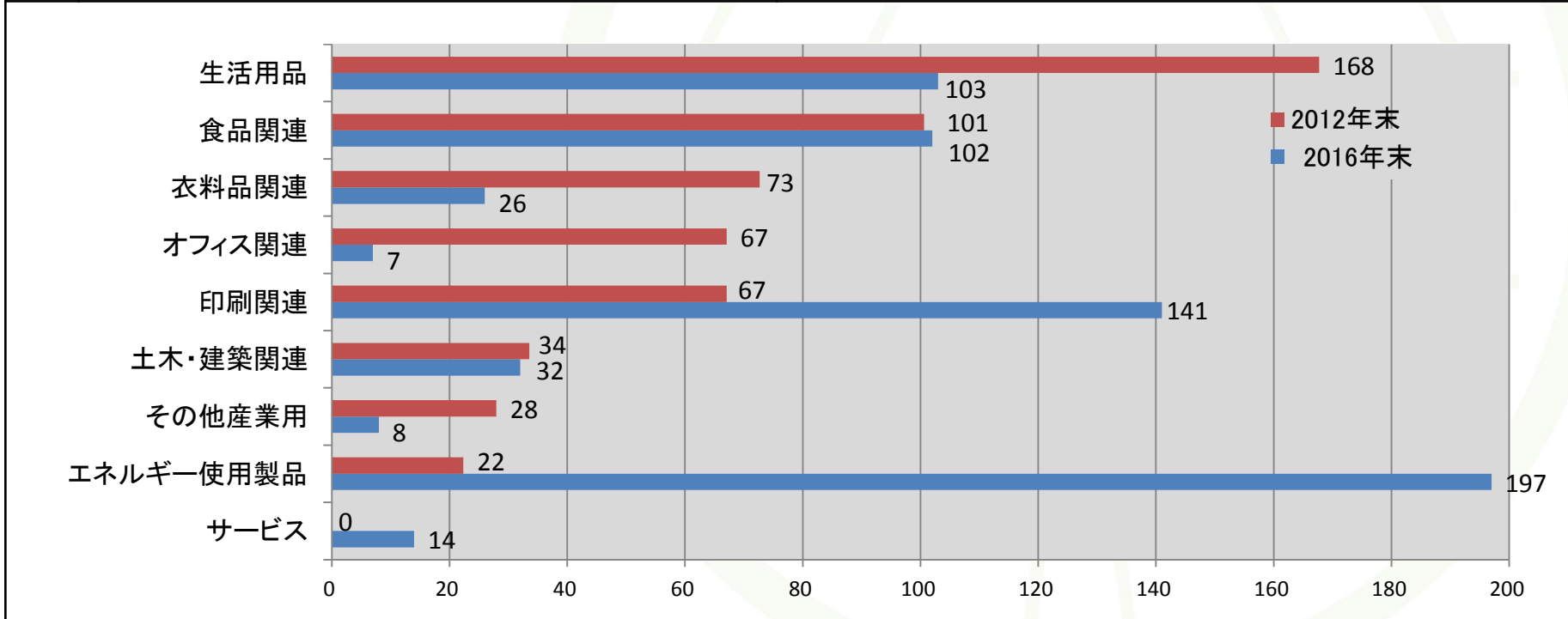




CFP 分野別登録有効製品数

登録数を分野別で見ると、近年エネルギー使用製品(複写機)と印刷関連の登録が著しい。

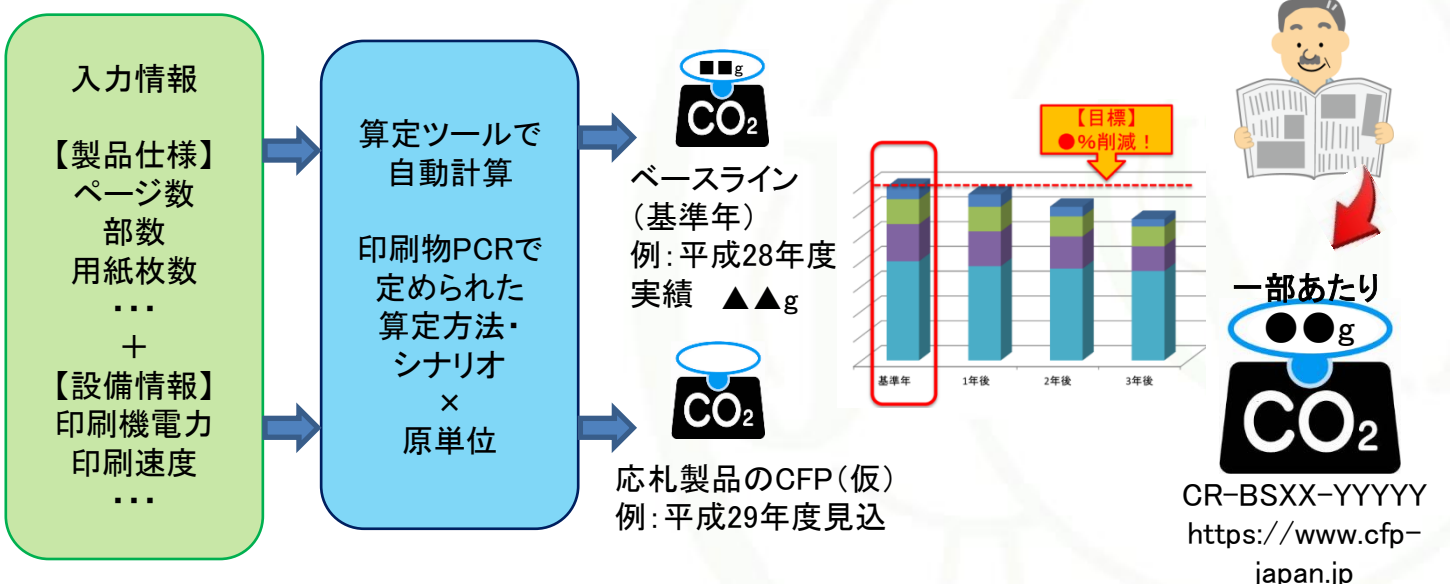
	2012年度時点	民間移行	2016年度時点 (12月まで)
登録上位	1. 生活用品 2. 食品関連 3. 衣料品関連 4. 印刷関連		1. エネルギー使用製品 (主に複合機) 2. 印刷関連 3. 生活用品 4. 食品



紹介/国内:印刷物の簡易検証実験の実施

- 印刷事業者が通常業務で把握可能な最低限の情報を入力することでCFPの算定ができる算定ツールを、事業者の方々とWGを編成して作成中。
- 算定実務をツールが行うことにより、検証の信頼性を損ねることなく、簡易化が可能となる。

自治体広報誌等での活用イメージ



広報誌(印刷版)のライフサイクルCO₂排出量をカーボンフットプリントで具体的に表示することで...

- 自治体の環境に関する取り組み、考え方を知らせてもらうきっかけになる。
- 市民のライフサイクルでの環境意識を高めるための教材として活用できる。
- 区・市内事業者の環境対応を促すきっかけに。

算定・検証の作業負荷、費用負担を軽減することにより、参入障壁を下げ、自治体等の「CO₂の見える化」取組への活用を推進する。